

売り込め！「もちの里一関」



上/もちつきは大人気。たくさんのお客さんが子供もベッタベッタに「もちの里」をPRする坂本副市長

子ども二人と近郊から買い物に訪れたという女性(28)は「きねでついた出来たてのもちを食べるのは初めてです。柔らかくてとてもおいしいですね」とこり。傍らの子どもたちも「どれもおいしい」とほかほかのもちをほお張っていました。会場には「一関もち

首都圏に一関のもち文化をPRしようとして9月22日、県、市、農協関係者がイトーヨーカ堂久喜店(埼玉県)を訪れました。同日で9月19日から24日まで行われた「岩手県フェア」に参加したもので、店内の特設会場で「祝いもちつき振舞隊」の皆さんがもちつきを披露。同フェアの「知事トップセールス」で訪れた達増県知事もきねを振るつたほか、見物の子どもたちも、振舞隊の手ほどきを受けながら、もちつきを楽しそうに体験しました。つき上がったもちには、あんこやずんだ、シヨウガもちなどに味付けされ、買い物客400人に振る舞われました。

イトーヨーカ堂は、一関地方の「もち膳」を参考にした「一関名物もち弁当」を全国169の店舗で8月15日から発売。当初5日間約1万5000パックを売り上げ、人気を博しています。商品化に当たり、県、市、農協、商工観光団体などで構成する「一関もち食普及推進会議」や「一関もち文化研究会」らの関係団体が協力。一関のもち文化の全国発信や、材料のもち米などを供給する体制づくりなどを進めることにより、地元経済への波及効果が期待されています。

健康と長寿を祝い乾杯

敬老会



19年度市敬老会は9月中旬から11月にかけて、各地域、地区ごとに催されています。招待者は昭和3年4月1日までに生まれた満80歳以上。当祝者数は9月1日現在で1万1511人(一関地域4500人、花泉地域1657人、大東地域2063人、千厩地域1309人、東山地域817人、室根地域703人、川崎地域462人)で、その

うち88歳の米寿を迎えるのは560人です。それぞれの会は、福祉活動推進協議会や自治会など、各地域・地区の皆さんの企画による、細やかな配慮と心のこもった運営により進められました。祝い品贈呈や「皆様がお元気で敬老会を迎えられたことに心からお慶びを申し上げます。当市の今日の発展は、皆様の地域の発展に対する強い意志とたゆまぬ努力の積み重ね。これまでの豊富な人生経験を生かし、ますますご健健で活躍くださいますようお願い申し上げます」との浅井市長からのお祝いのこ



上/和やかな雰囲気の中、当祝者のみなさんと長寿を祝って乾杯。左/川崎地区の当祝者のみなさん

とばなど、祝賀ムードの中、出席者が高らかに乾杯しました。祝宴では、当祝者の皆さんが「あちらこちらで近況や懐かしい話に花を咲かせていました。ステージでは地元の幼稚園、小学校児童や地区の皆さんによる祝いの踊りや歌が披露され、当祝者の健康と長寿を祝いました。そのうち、当祝者316人の舞川地区敬老会は9月17日、一関文化伝承館で行われました。浅井市長のあいさつに続いて、当祝者を代表して今年80歳を迎えた菊池武さんがあいさつ。菊池さんは自作の俳句を披露しながら、初めての敬老会を迎えた心境や日常のことなどを軽妙に語りました。乾杯に続いての余興では、地区の皆さんの踊りのほか、7月に全国大会に出場した舞川小児童が鶏舞と鹿子躍を披露しました。

民俗
芸能祭

伝統芸を華やかに力強く

第4回両磐民俗芸能祭(両磐地区芸術文化団体協議会主催)は8月26日、大東コミュニティセンター室蓬ホールで行われ、市内、平泉町、藤沢町から出演した9団体が、神楽、鹿子踊り、太鼓などの自慢の演目を披露しました。

(川崎地域)、花泉町神楽保存連絡協議会(花泉地域)、大木鹿子踊保存会(東山地域)、洪民伊勢神楽保存会(大東地域)の7団体が出演しました。そのうち、花貫伊勢神楽保存会は、手に花ばちを持った踊り手が、にぎやかな太鼓や笛に合わせて、お伊勢参りに出掛ける旅人の様子をあでやかに演技。会場いっぱい詰り掛けた観客から盛んな拍手が送られました。



手に花ばちを持ってあでやかな舞を披露する花貫伊勢神楽保存会

世
界遺産
を目標として

骨寺村荘園
遺跡講座
その3

陸奥国骨寺村絵図

文治5(1189)年の奥州合戦により、約100年の栄華を誇った奥州藤原氏は滅亡しました。当時の中尊寺経蔵別当・心蓮はその直後、志波郡陣丘(現紫波町)に宿営していた源頼朝のもとに参上し、骨寺村の存続を嘆願しました。骨寺村は即日経蔵別当領として頼朝から安堵され、「東・錦懸、西・山王窟、南・磐井川、北・ミタケ堂馬坂」の四方の境の確認もなされました。これらの様子は『吾妻鏡』(※)の文治5年9月10日の項に記されています。

北朝時代ごろに描かれ、国の重要文化財に指定されています。村にある神社などの経営費用を賄う仏神田の記述のある方が、仏神田(簡略絵図)、在家や水田の形が詳しく描かれてあるものが在家絵図(詳細絵図)です。絵図は、当時藤原氏に代わって頼朝から支配を任された葛西氏が、度々荘園に対し自領であるかのような動きをしたので、その葛西氏との境相論の際に使用されました。

その四方の範囲を経蔵別当領・骨寺村として描いた2幅の荘園絵図が、中尊寺の大長寿院に伝わっています。鎌倉から南

絵図には中世の農村の風景や生業、神仏への信仰など多くの情報が描き込まれ、人々の暮らしに根ざした精神世界の豊かさを感じ取ることが出来ます。

※『吾妻鏡』鎌倉幕府が自ら編纂した歴史書。1180年から1266年までの出来事を年月を追って記している



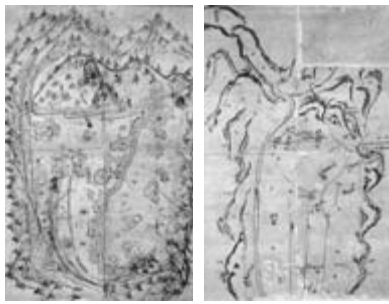
息の合ったハーモニーを披露した東山うたう会・コーラスバンドの皆さん

コーラス
フェス

美しいハーモニーを披露

第21回コーラス両磐フェスティバル(両磐地区芸術文化団体協議会主催)は9月16日、藤沢町文化交流センター縄文ホールで行われ、両磐地区の25団体約400人が出演しました。混声、女声、男声、少年少女の、年齢も人数もさまざまなグループが、それぞれに工夫を凝らした衣装をまとい、日ごろ練習を重ねてきた、クラシックの名曲から童謡、唱歌、ポピュラー音楽

までバラエティに富む得意のレパートリーを披露。グループによつては振り付けなども交えながら、息の合った美しいハーモニーをホールいっぱいに響かせました。詰め掛けた聴衆は、知っている曲目の歌詞を口ずさんだりしながら、ステージ上で奏でられる柔らかなハーモニーを楽しく鑑賞し、出演者に惜しみない拍手を送っていました。



陸奥国骨寺村絵図(左・詳細絵図、右・簡略絵図) 中尊寺大長寿院蔵

◎問い合わせ先
本庁骨寺荘園室